

筑波大学新聞

第393号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 日影展 筑波大から10作品入選
- 水泳 溝口 日本選手権で3位
- 柔道 田中男子73kg級で日本一
- 未来社会デザイン棟開所
- 医学食堂リニューアル

11 10 9 8 5
ミニ特集

3
自転車に青切符
交通安全の在り方考える

特集
躍進する筑波大アスリート 6・7
サポート体制を探る

筑波研究教育機構発足へ 研究機関の連携強化



25機関の代表者が一堂に会した発足式(3月23日、つくば市内のホテルで)

筑波大や国立研究開発法人など筑波研究学園都市(つくば市)にある研究・教育機関を中心とした共創体「筑波研究教育機構(仮称)」の発足に向けた協議が今年3月に始まった。研究学園都市における大学と研究機関の連携は従来、個別プロジェクトが中心だった。新たな共創体では一体感を持って推進する体制を整え、研究力の向上や人材育成の促進を図るとい。来年度中の活動開始を目指す。

(主筆 太田地球学類3年、写真も)

同機構の基盤となるのが、筑波大が1992年から実施してきた連携大学院だ。これは、国立研究開発法人などの研究者を筑波大の教員(連携教員)として迎え、その機関の研究環境を活用しながら学生に研究指導を行う大学院教育の方式

が、筑波大が1992年から実施してきた連携大学院だ。これは、国立研究開発法人などの研究者を筑波大の教員(連携教員)として迎え、その機関の研究環境を活用しながら学生に研究指導を行う大学院教育の方式

面接・口述試験導入

28年度一般入試から

筑波大は2028年度入試の一般選抜(前期日程)から、面接・口述試験を導入することを決めた。受験者の学力を多面的に評価するため、全23学類中19学類(人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類、数学類を除く)が対象だ。1次試験で大学入学共通テストを課すことには変わらない。体育専門学群(芸術専門学群)の入試は従来通りとなる。

(川畑悠成 知識情報・図書館学類3年)

筑波大はこれまで、大学

類、看護学類、医療科学類入学共通テストと2次試験の3学類にとどまっていた。一方、今回の変更の結果、前期日程の入学定員約1300人の半数が面接・

口述試験を経ることになる。

また、二つの専門学群を除く23学類と総合選抜の科目試験が、論理的思考などをより重視する論述試験へと変わる。

面接・口述試験の配点は学類によって異なる。大学入学共通テストと個別試験の合計の内、面接・口述試験の配点割合が最も高いのが知識情報・図書館学類で23・5%、最も低いのが

応用理工学類のII型で、9%となっている。また、面接・口述試験が行われない学類についても、別の形で主体性・積極性を測ることになっている。

総合選抜では、入学後にどのように学び、自分の将来につなげていくかを書く「学びの設計書」を受験者に提出してもらう。人文・文化学群の3学類では、論述試験で学力を多面的に評価する。数学類も論述試験の中で、論理的思考力などをみるという。今回の入試改革の狙いについて竹中佳彦副学長教育担当は「これまでの一般選抜は、基礎学力を確認

できた一方で、主体性・積極性は明確に見ていなかった。面接・口述試験を導入することで、それを明確に測れるようになる」と語った。また、受験者に対しては「面接・口述試験や論述試験では、自らが学んできたことを用いて考えを組み合わせ、自分の言葉で説明する姿勢を大切にしてください」と呼びかけた。



双方向の透明ディスプレイを使うと、相手の表情なども読み取れる=デジタルネイチャー研究室提供

落合教授らに文科相表彰(開発部門)

双方向字幕システムの開発で

今年度の科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が4月に発表され、筑波大からは計11人の教職員が受賞した。このうち、落合陽一

教授(図情学系)が主宰するデジタルネイチャー研究室のメンバー5人は、ろう・難聴者と聴者が共に字幕を確認しながら対話できる、透明ディスプレイを用いたリアルタイム字幕表示システムを開発したことが評価され、科学技術賞(開発部門)を受賞した。落合教授の同賞受賞は今回で3回目。「開発部門」での受賞は、社会に技術が普及したことの証で、それがうれし

い」と話している。受賞対象となったシステムは、同研究室とジャパンディスプレイ(本社・東京都品川区)が共同で開発した。音声認識でテキスト化された字幕が透明パネルを挟んだ双方に同時表示される。これにより、ろう・難聴者が相手の表情・身振りのといった非言語情報を損なわずに字幕を読める環境を実現している。

コロナ禍では、飛沫防止用パネルや、マスク越しの会話の聞き取りづらさを解消するツールとしても注目も確認することができた。

開発されたシステムはつくば市役所の窓口での実証実験などを経て、社会への普及が始まっている。現在では、音声認識も多言語に対応している。

開発されたシステムはつくば市役所の窓口での実証実験などを経て、社会への普及が始まっている。現在では、音声認識も多言語に対応している。

筑波お話し

現在は気象学を学んでいるが、中学生までは新聞記者志望だった。小学生の時に地元紙の記者が出勤授業にやってきて、記事の書き方を教えてくれたことがきっかけ。幅広い情報を集め、文章の構成や見出しを工夫し、分かりやすく伝える作業に魅了された▼気象学を志したのには、地元が2020年夏に梅雨前線による大雨に見舞われ、道路が大規模に陥没するなど今までにない被害を経験したからだ。気象災害の防止に貢献したかった。そのころ、地元紙と全国紙の記事をインターネットで読み比べるようになり、地元紙には国際的視点がないと感じたことも影響した▼ところが、平砂宿舎に入居した2年前の春、共用棟に

置かれていた本紙をたまたま目にした。ウクライナの避難学生からカーボンフットプリント、学生アスリートの記事まで、幅広い話題が展開されており、自分も編集部で活動してみたいと思った▼編集部に入ってから、毎日が新しい体験だった。取材、写真撮影、記事執筆、紙面レイアウト……。五輪出場選手への取材も忘れられない▼だが、最も印象に残っているのは、学生宿舍利用料値上げを巡る取材だ。大学側、学生、不動産業者、他大の状況などを多面的かつ客観的に伝え、読者の判断材料となる情報を届けることを心がけた。多面的な情報を迅速に集めて、客観的に判断する姿勢は、気象災害の防止という観点からも、重要なことだと思っている。

開発されたシステムはつくば市役所の窓口での実証実験などを経て、社会への普及が始まっている。現在では、音声認識も多言語に対応している。

第三エリアリニューアル 2度目の実証実験 8月まで



屋外スペースでくつろぐ学生ら(6月4日、第三エリアで)

第三エリアの3A棟周辺を中心とした屋外スペースをリニューアルする「第三エリアスマートキャンパスプロジェクト」の第2弾実証実験が4月1日から始まった。筑波大ヒューマン・スマートシティ研究機構と鹿島建設(本社・東京都港区)の共同プロジェクト。屋外スペースの自転車通行を規制して歩行者との接触事故を減らす一方、テーブルや椅子を設置して学生の憩いと交流の場とするを目標としている。今回の実験は8月上旬まで。

昨年10月に行われた最初の実証実験では、3A棟前の屋外スペースについて、系棟付近などに臨時駐輪場を設けた。押し通行とすることを求めた。駐輪も不可とし、理科系棟付近などに臨時駐輪場を設けた。

プロジェクトチームはその後、学生・教職員を対象に、最初の実証実験に関するアンケートを実施。回答者の約8割がテーブルや椅子の設置を肯定的に評価する一方で、駐輪場の撤去について、利便性の低下を指摘する声もあった。

このため、今回の実証実験では、3C棟の南側に臨時駐輪場を増設した。さらに、手押し通行のみ可能とすることを知らせる案内看板を3A棟前のスペース北側と南側に目立つように設置した。

昨年、今年とも実験中には、レーザー光を利用した高性能センサー(LIDAR)で対象エリアの通行状況や位置情報を記録を行うアプリを入れたスマートフォン

を有志学生に携行してもらい、通学や学内移動時のルートを記録する調査も昨年からの継続して実施中だ。よく使われる経路や混雑状況を分析し、今後の空間作り役立てる。現場での観察調査やタイムラプスカメラを用いた滞留調査も実施し、利用状況を多角的に分析する。

実験期間中に改めて学生と教職員にアンケートを実施し、実証実験に関する評価を聞く予定だ。都市計画が専門で、同プロジェクトメンバーの両宮護教授(シス情系)は「昨年度とは異なり、実証実験前の状態を知らない新入生もスペースを利用する。利用者の変化が調査結果にどのような影響を与えるのか注目したい」と語った。

同スペースを利用したという比文4年の女子学生は「以前は『粉とクリーム』で買ったパンをここで食べるか悩んでいた。座れる場所が増えて便利だ。自転車による混雑が減り、ゆとりを感じる」と話した。

大きな情報を有機的に結合し、最大限に活用するデジタルキャンパスの構築を目標の一つに掲げていた。SmartDBの導入はその一環だ。例えば、新たに構築した文書管理システムを活用すると、大学職員が学外に出張している際もクラウド上で文書の決裁が可能になる。また、業務システムを、ノーコードを生かして学内で開発することにより、システム開発を外注する経費も削減することが期待できるという。

当面は事務職員を中心に約2000人が利用する

ト室は「文書の登録や閲覧、承認、保存などの業務プロセスをクラウド上で一元管理することが可能になり、業務の効率化や可視化が期待できる」としている。SmartDBは、ドリームアーツ(本社・東京都渋谷区/広島県広島市)が提供する。複雑なログインが不要なノーコード

国立大初 SmartDB導入 業務の効率化に期待

筑波大は今年3月、全学的なDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進基盤の一つとして、業務デジタル化プラットフォーム「SmartDB」を導入した。このプラットフォーム上に文書管理システムを構築し、6月から本格運用を始めた。情報マネジメント

SmartDBは、ドリームアーツ(本社・東京都渋谷区/広島県広島市)が提供する。複雑なログインが不要なノーコードで呼ばれる方式で簡単にアプリケーションやウェブサービスを、業務システムなどをクラウド上で開発できるのが大きな特色だ。国立大での導入は初めて。筑波大は2030年の筑波大のあるべき姿を示した「筑波大学Vision 2030」を22年4月に公表。その中で、学内外の膨

が、今後効果検証を行ううえで、将来的には教員や学生にも利用を拡大することも検討していく。加藤和彦副学長(情報マネジメント担当)は「できる限り早く、情報マネジメント室以外の職員もノーコードで業務システムを企画、開発できるようにしてほしい。教職員が楽になったと感じられるように、事務仕事を効率化し、残業の削減につなげたい」と語った。(飯野歩 国際総合学類2年)

つくばインターフェース 企業と気軽に交流

インターフェースを募集する企業と筑波大生が気軽に交流できる「つくばインターフェース」が5月10日(土)はスタートアップパーク(つくば市吾妻)で開催された。学生56人と企業10社が参加した。参加学生は全フェースをローテーション形式で巡った後、興味のあるフェースを個別に訪れて、食事しながら交流していた。

同フェースは筑波大生に特化したインターンシップ求人メディア「Sukuba Intern」の主催で、今年4月に筑波大発ベンチャー

グループで説明を受ける参加者ら(5月10日、つくばスタートアップパークで)

「理系の企業だがインターン参加者に文系もいるのか」「自分の専門とは異なる分野だが、インターンに参加できるか」など、気軽に質問をしていた。

フェースに参加した吉田佳展さん(体専2年)は「普段は気軽に会えない社長さんたちとも話ができた。名前を知っていた企業でも、予想外の活動をしていたことなどが分かり、よかった」と話した。

ハルクス代表取締役の桑原正史さん(情報P前期1年)は「東京都内の大学と比べて、筑波大生はインターン参加が少ない。インターンでは、どんな企業で働きたいのかという就職の解像度を高めることができる。筑波大生専門求人サイトや定期的なイベント開催でこれからの筑波大生を支援したい」と語った。(惣田聖斗 心理学類3年、写真も)

感染症対策で協働大学院 高度人材を育成

筑波大と国立健康危機管理研究機構(JIHIS)、医薬基盤・健康・栄養研究所(NIBN)は感染症危機管理分野で協働大学院を設置することを決め、5月12日に筑波大東キャンパス(東京都文京区大塚)で調印式が行われた。開講は来年4月の予定で、国際的に感染症対策を先導する高度専門人材の育成を目指す。(飯野歩、12面に関連写真)

協働大学院は筑波大独自の組織で、大学と国の研究機関、民間企業などが組織の枠を超えて連携し、教育プログラムの企画・運営・

から、話ができるように会場には寿司600貫が用意された。学生たちは各フェースで「理系の企業だがインターン参加者に文系もいるのか」「自分の専門とは異なる分野だが、インターンに参加できるか」など、気軽に質問をしていた。

協働大学院は筑波大独自の組織で、大学と国の研究機関、民間企業などが組織の枠を超えて連携し、教育プログラムの企画・運営・

つくば市 人口茨城県内 1位に 増加率も 全国の市でトップ

総務省が5月29日に発表した2025年国勢調査の速報値(25年10月1日現在)で、つくば市の人口が26万8991人と、県

庁所在地である水戸市の人口(26万5773人)を抜いて茨城県内の市町村で初めてトップになった。

つくば市の人口は20年の前回国勢調査と比べて2万7335人増え、人口増加率は11.3%。全国の市では増加率は1位だった。一方、水戸市は前回調査より4912人減った。つくば市の五十嵐立青市

長は自身のX(旧ツイッター)で「人口増がこの10年で加速している(中略)『増えた』という事実は『すべてがうまくいっている』を意味しない(中略)。科学と自然と人が交わるつくばで、すべての人が幸せを実感できるよう、これからも誠実に取り組んでいく」と投稿した。(川畑悠成)

睡眠研究の 筑波大初 卓越フェローに 柳沢教授

筑波大は4月16日、国際統合睡眠医学研究機構(IIS)機構長の柳沢正史教授に「筑波大学卓越フェロー」の称号を授与した。この称号は国際的に高く評価される研究業績を持つ教授に与えられる。今回が初めての授与となる。

柳沢教授は1998年に睡眠・覚醒制御の鍵となる脳内物質「オレキシン」を発見し、日中に突然強い眠気に襲われる睡眠障害「ナルコレプシー」の病態を解明した。また、それが過眠症や不眠症の治療薬に結びついた。その功績から2023年には自然科学分野の国際的な学術賞「ブレイクスルー賞」を受賞。

これに先立ち、19年には文化学功労者に選出された。柳沢教授は受賞を受け、本紙の取材に「国際的な賞を受賞したことに加え、IISでの研究や運営、大学院教育、産学連携など今まで頑張ってきたことが評価されたのだと思う。今後はこれまでの研究を発展させ、眠気の本質に迫りたい」と述べた。(王生泰太)

社会実装、危機管理が教育の三本柱となる。永田恭介学長は調印式で「この現場に近い研究機関での学びは、学生にとって大学とは違う効果がある」と期待する」と語った。また、担当教員の川口敦史教授(医学医療系)は「日本では感染症関連の研究分野が縮小化しており、十分な感染症危機管理体制を整っていない。これらの課題を克服し、パンデミックの再来を防ぐ国際的な専門家を育成したい」と抱負を述べた。

もっと知りたい! 科学の芽の世界 PART10
筑波大学長 永田恭介 監修 / 筑波大学賞 賞実行委員会 編
新しい量子力学入門 下
小泉裕康 著

筑波大学
出版会
新刊案内
朝永振一郎記念「科学の芽」賞の受賞作品集第10弾。今回は第19・20回(令和6・7年)の受賞作品などを収録。
B5判並製フルカラー、178頁。6月18日刊行。3740円(税込み)。
B5判並製、230頁。7月27日刊行。9970円(税込み)。

新しい量子力学入門 下
小泉裕康 著
近似的法・多体問題・場の量子化などを通して現代的展開を示し、量子力学の発展と未解決問題への視野を開く入門書(上巻刊行済)。



自転車に青切符

交通安全の在り方考える



青切符でどう変わる？

これまで自転車の交通違反に罰金を科す「青切符制度」が今年4月に始まった。自転車が関与する事故や違反が増える中、利用者に安全意識を高めてもらう狙いがある。キャンパスが広大で、教室間移動などに時間がかかる筑波大生にとって、自転車は「人権」とも呼ばれる必需品だ。青切符制度の概要や対象となる交通ルールを整理し、安全な自転車利用の在り方について考える。(大成夏生、鈴木華二比較文化学類 結城希二国際総合学類、壬生泰太II地球学類、12面に関連写真)

制度の種類	主な違反内容	手続き
赤切符	○酒酔い運転 ○妨害運転(あおり運転) など	刑事手続き
青切符	○信号無視 ○一時不停止 ○無灯火運転 ○傘さし運転 ○ながらスマホ ○遮断踏切立入り など	反則金を納付

「違反行為をした」62%

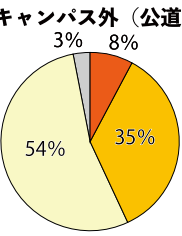
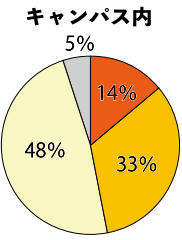
本紙は青切符制度導入に伴い、筑波大生に自転車の利用実態を聞くオンラインアンケートを5月26日から6月2日に実施した。有効回答は1000人だった。回答者の居住地はつくば市内が84%、市外が16%だった。青切符制度の導入は97%が「知っていた」。「普段、どの程度自転車を利用しているか」との問いには「毎日」が62%、「週に5、6日」が25%を占めた。一方「使用しない」は5%だった。

筑波大生へのアンケート調査結果

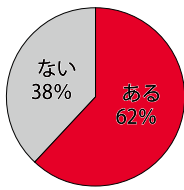
自転車の利用頻度



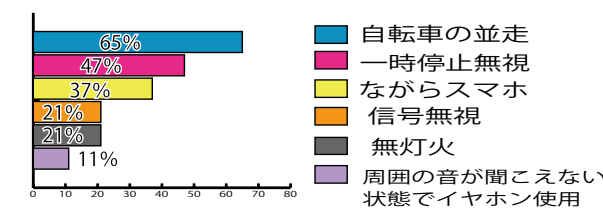
【運転時の行動を変えたか】



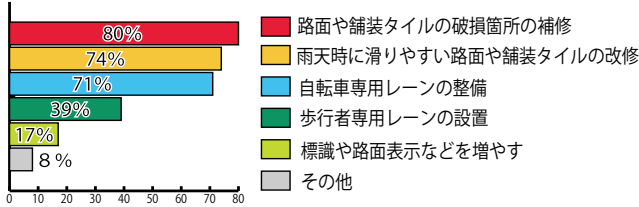
制度導入後に違反行為をしたか



制度導入後に違反した行為



学内での自転車事故防止策として必要なもの



まずは指導・警告から



坂本武司警部補

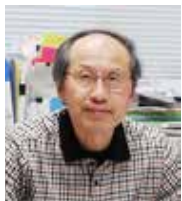
自転車は道交法で軽車両とされ、原則として車道の左端を通る必要がある。反則金は6000円だ。だが、車道の交通量が多かったり車道が狭かったりして危険な場合は歩道を走行できる。歩行者と自転車が一緒に描かれた標識がある歩道、自転車専用レーンやアレーキがない自転車の運転(反則金5000円)など危険性が高い違反の場

自転車の追い抜きに新ルール

今回の道交法改正では、自動車による自転車の追い抜きについても新たなルールが定められた。自動車は自転車の右側を通過する際は、できる限り間隔を空けることが求められる(警察庁の目安では少なくとも1m)。間隔が確保できない場合は時速20km/hまで減速しなければならぬとされた。

坂本警部補は「追い抜きに十分な余裕が確保できない場合は、左端に寄る必要がある」と話した。

専門家に聞く



金利昭名誉教授

交通工学が専門で、つくば市の自転車政策に関する有識者会議「自転車のまちづくり推進委員会」初代委員長を務めた金利昭・茨城大名誉教授は青切符制度の意義や今後の課題を聞いた。

「聞き手・鈴木華二」自転車のルール違反の多くは従来、罰則のない指導にとどまるか、刑事罰の対

キャンパス内も道交法適用

筑波キャンパスを囲むループ道路の多くは筑波大の私有地だが、道交法などの交通法規も適用される。つくば署によれば、不特定多数の車両や人が自由に通行する「一般交通の用に供する場所」となっているため、青切符の導入で取り締まりの基本的方針が変わったわけではない。切符を切るのは明らかに迷惑・危険行為に該当する違反をして事故を起こした場合は、その責任を問われることになる。

同課は毎年春と秋に交通安全運動を実施しており、今回のキャンペーンもその一環だ。この他、学生団体の代表者らを集めた「セーフティライフ講習会」を毎年開催し、交通安全や学生生活上の注意事項について説明を行っている。



授業間の休憩時間には自転車の渋滞も発生(6月8日、ペDESTリアンデッキで) = 結城希撮影 ※画像は一部加工しています

昨年度に学生部へ報告された筑波大生が絡む交通事故は64件。関係した学生は計102人で、このうち自転車利用者が56人と半数を超えた。同課は「キャンパス内外を問わず、自転車利用時の交通規則遵守を徹底してほしい。ヘルメットの着用は努力義務だが、自分の身を守るためにも着用してほしい」と呼び掛けている。

「誰にでも安全な道路に」

自転車利用者は、自身の安全と他者の安全を考えたうえで、歩道を走ってよいことにはならない。自転象となる赤切符が切られるかの両極端な対応は危険な場合もある。時には危険なように、歩行者に赤切符には至らない違反を抑止することは評価できる。ただし、制度の有効性は警察がどの程度力を入れて継続的に取り締まりを行うかにかかっている。

道路交通の安全確保の柱は、通行帯整備、交通安全教育、青切符などの取り締まりの三つだ。つくば市は常時左折可能なレーンが多くなるなど自動車優先社会を築いていくことが重要だ。

展 筑波大から10作品入選

日彫 触れる彫刻鑑賞も開催

彫刻の公募展としては国内最大規模となる日本彫刻会展覧会(日彫展、公益社団法人日本彫刻会主催)が4月18日～5月2日に東京都美術館(東京都台東区)で開かれ、筑波大関係者10人(教員1人、大学院生7人、研修生など)も入選作品が選ばれた。このうち中村日香さん(芸術P前期1年)も一ツ土管が積み重なったもので、少女も土管も白



「在り処」を鑑賞する来場者(5月2日、東京都美術館で) = 惣田堅斗撮影

「在り処」が新人賞、中村さんの作品は「在り処」が新人賞、意識してこのタイトルをつけたという。「作品では通常、人物に焦点があたる。しかし、その人物は土管によってどこに存在しているのかが規定される。それによって人物のイメージが広がり、作品もより印象付けられる」と考えたからだ。作品そのものは、厳密な左右対称で作られた古代工シフト美術の彫像を意識して制作した。「土管の端をそろえて、均一性を表現した」という。新人賞については「入選できるかすら不安だったので、受賞は驚いた。やりたいことを表現できてよかった」と語った。

日彫展では初日と最終日を除く毎日、視覚に障害のある人が作品に触れて鑑賞する「タッチツアー」が実施された。また、今年度は期間中に3回、視覚特別支援学校の児童・生徒が参加する「触れる鑑賞教室」を開いた。会場には石こうや金属、木などさまざまな素材の彫刻が約300点展示されており、そのうち鑑賞支援部に選出された32点に触れることができる。

授(芸術系)は「芸術作品の中で直接手で触れられるのが彫刻の大きな特徴だ。触覚での鑑賞は視覚よりも時間がかかるが、その分丁寧な一つ一つの情報を深く理解し、実感を持って作品を味わうことができると、視覚の障害の有無を超えて触れることは芸術鑑賞の入り口になりやすい」とその意義を語った。(鈴木華二比較化学類2年)

初の新学術系合同新歓

6団体が集合

筑波大の学術系サークル210が開かれた。両日とも学生約10人が参加した。新歓に登場したのは、S O D A・V T E D X・イベン

ト運営委員会▽つくば市まちづくり学生団体かざぐるま▽筑波大学桐政会▽法交渉サークルNegotiumの学生団体五つと筑波大学新聞編集部。参加者は各団体による10分間の説明を聞いた後、気になる団体のブースを訪ねた。企画を考案、運営した木下深花さん(社会学4年)は「筑波大には多様なサークルが存在する。社会学類を始めとする、新入生のサークル選の助けになれば」と思い、合同新歓を企画した。

齋藤さんにミスコレ賞

ミスキャンパス 筑波大で2人目の入賞

全国のミスキャンパス(Zepp Shizuoka) (東京都新宿区)で開催され、齋藤真奈海さん(令和7年度看護学類卒)が特別賞の一つのミスコレ賞を受賞した。筑波大からの出場者が入賞するのは2023年以来で2人目となる。

このコンテストには全国の大学で昨年度に開催されたミスコンテストのグランプリ・準グランプリ受賞者が出場できる。齋藤さんは昨年11月の筑波大学学園祭(雙峰祭)で行われた「TSUKUBA COLLEGE CONTEST 2025」(つくば)で準グランプリに輝いていた。(望月柚那)

ぷりぷり短歌 筑波大

光風を浴びる立木の頼もしさ
かくも短きつくばのひととせ

5月21日、松美池前で

昨年今ごろ、本欄で桐花の短歌を寄稿した(2025年6月18日発行、第388号)。開学50周年記念樹のあの幼木は、たった一年で青々と枝葉を伸ばし、実に堂々とした姿になっていた。つくばの光と風をいっぱい浴びながら、学生たちをそっと見守るような頼もしい佇まい。その成長の早さに、私は「ひととせ」の月日の短さと、この学舎で過ごす時間の濃密さを改めて実感するのである。(東風えまり)人文社会学部プログラム1年



『ラディカル・オーラル・ヒストリー』

保莉実著

保莉実著 『ラディカル・オーラル・ヒストリー』(岩波書店)は、保莉実の著書で、同世代の在日日本人の歴史を語り、その中で保莉実の経験や見聞が語られる。保莉実の著書は、保莉実の著書で、同世代の在日日本人の歴史を語り、その中で保莉実の経験や見聞が語られる。保莉実の著書は、保莉実の著書で、同世代の在日日本人の歴史を語り、その中で保莉実の経験や見聞が語られる。

大人も子どもも出店

研究学園で「モリキドマーケット」



積極的に客を呼び込む子どもたち(4月29日、研究学園駅前公園で) = 小川優羽撮影

大人も子どもも出店できる市学園南で4月29日に開かれた。手作りのアクセサリー「モリキドマーケット」が、リ販売やスーパースポーツ研究学園駅前公園(つくば)で、すくいな遊び体験が

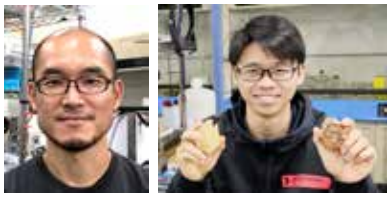
貼って遊び心を加えた。売場者で、約300人の来場者で賑わった。会場では子どもが自ら呼び込みをしたり、大人の店を手伝ったりする姿も見られた。つくば市内の森を利用した預かり保育活動などを通じて知り合ったメンバー4人が共同代表を務める運営委員の主催で、開催は昨年7月に続いて2度目。小中学生を中心に、つくば市で活動する手芸クラブ「Tsukuba こどもソーイングクラブ」は鉛筆キヤップやハンカチなどを販売した。鉛筆キヤップは、三角や四角に縫い合わせたフェルト生地が目玉型のシールを

つくば市内から2歳の娘を連れて来場した小牟禮貴人さん(29)、楓さん(29)夫婦は「店が多く価格も手頃なので、気軽に購入できよかったです。子どもが売子をしているので、お土産さんごっこが好きな娘も楽しんでいました」と話した。アーツィストの宮崎真里さんら4人の共同代表は「大人と子どもが入り混じって一つの商店街を形成する光景を見ることができた。秋ごろ第3回を予定している。これからもモリキドマーケットで生まれる温かい空間を大切にしていきたい」と話した。(大竹翔二文学類3年、小川優羽)同2年、大成夏生)

中空萌 教授 (文化人類学) 人文社会学系・教授。東京大学大学院総合文化科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。広島大准教授を経て、2025年より現職。



Hello! 先端研究



興野純准教授 竜波駿平さん

公園や庭などでよく見かけるダンゴムシ。刺激を受けると、背中をくると曲げる姿がかわい...
「ダンゴムシ」と呼ばれるが、ダンゴムシは昆虫ではなく、エビやカニと同じ甲殻類だ。
ダンゴムシの背中の殻(背殻)は、実は鉱物の炭酸カルシウムでできている。飼育する際にはその形成を促すために右を入れておくとよいとい

ブランディング

筑波大の各運動部のユニフォームカラーは2012年、フューチャーブルーに統一された。また、16年にはユニフォームに入れるスポーツエンブレムが、「五三の桐」の校章をモチーフとして開発された。
大学スポーツのこうしたブランディング化について、体育スポーツ局の大山教授は「運動部は従来、競技ごとに独立した縦割りの組織となりがちだった。ユニフォームの統一は同じ大学のメンバーという意識の醸成につながる」と話す。



東海大との対戦で盛り上がった「TSUKUBA LIVE!」(3月22日、中央体育館で) = 川畑悠成撮影

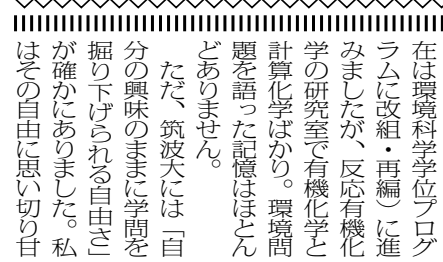
アスリートの一体感醸成

また、22年8月からは、ブランド化の一環で「IVEE」が行われてきた。大学と周辺地域が一体運動部のホームゲームイベント。また、大学と周辺地域が一体運動部のホームゲームイベント。また、大学と周辺地域が一体運動部のホームゲームイベント。
また、22年8月からは、ブランド化の一環で「IVEE」が行われてきた。大学と周辺地域が一体運動部のホームゲームイベント。また、大学と周辺地域が一体運動部のホームゲームイベント。

ダンゴムシは背中の殻どう作る 食べた石を原子レベルで再構成

だが、与える石の種類が背殻の形成にどのような影響を与えるのかわかっていなかった。
興野純准教授(環境系)と竜波駿平さん(地科P前期2年)らの研究チームは、ダンゴムシが食べた鉱物をそのまま使って背殻を形成するのではなく、体の中でいったん原子レベルまで分解し、構成...
「多形」が存在する。炭酸カルシウムの代表的な多形が「カルサイト」と「アラゴナイト」だ。カルサイトは石灰岩や大理石の主成分で、アラゴナイトはサンゴの骨格の主成分となっている。
採集したダンゴムシは、虫かごの中にカルサイトだけを入れたグループ▽同じくアラゴナイトだけを入れたグループ▽

もそれにほぼ匹敵する厚さになった。一方、石英を食べさせたダンゴムシの背殻が最も薄くなった。
さらに詳しく調べたところ、カルサイトを食べさせたダンゴムシは、虫かごの中にカルサイトだけを入れたグループ▽同じくアラゴナイトだけを入れたグループ▽
「ダンゴムシの食べる石が、今回の研究成果



与えた石と殻の厚さとの関係 = 興野純准教授提供

研究成果を部活に還元

硬式野球部



川村卓教授

筑波大の体育系の教員は、自らの研究を担当する運動部の指導にも生かしていることが多い。硬式野球部監督の川村卓教授もその一人だ。IPCが稼働したこと、専門とする野球の動作解析が進んだという。その成果を生かして、野球部員を指導している。
IPCは外部にも利用が公開されているが、それ以外



選手を指導する三橋准教授。「学生の気づきを促したい」と語る。(6月10日、体芸テニスコートで) = 松尾有姫撮影

チェックし、投球フォームの改善に役立っている。また、荒天時も屋内で練習できるのはありがたい」と話す。
川村教授はこうした選手たちのデータ分析とフィードバックを繰り返して、選手の長期変化を追っている。「IPCは世界的にも類を見ない施設だ。練習をこなすだけでなく、科学的知見を生かす指導者の育成にもつなげたい」と語る。

硬式庭球部



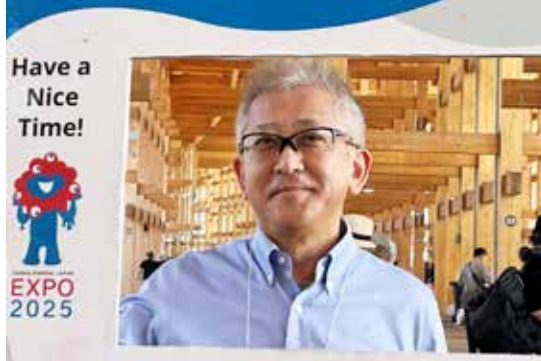
三橋大輔准教授

硬式庭球部監督の三橋大輔准教授(体育系)は、人工知能(AI)を用いたスポーツの動作解析の手法を開発した。手本となる動きを撮影した動画と選手の動きを撮影した動画を比較し、動きの類似点や相違点を明らかにする。当時、計算化学は企業で使うには早すぎる時代でしたが、昼は実験、夜は自宅で計算という生活...
2019年に研究所長、21年に経営企画部長、23年に研究管理役員、そして25年に代表取締役社長となり、現在に至ります。気づけば会社生活35年。振り返ると、大学時代に「好きなことに没頭した経験」が、ずっと自分を支えてくれたように思います。

手紙

1985年、私は筑波大第一学群農林学類(現在は生物資源学類に改組)に入學しました。農林学類と言いつながら、実はほとんど土も植物も動物も触れず、化学・分子力場・量子化学に夢中になっていました。大学院も環境科学研究所(現在は環境科学学位プログラムに改組・再編)に進みましたが、反応有機化学の研究室で有機化学と計算化学をやりやっていたのに、与えられたテーマを語った記憶はほとんどありません。
ただ、筑波大には「自分の興味のままに学問を掘り下げられる自由さ」が確かにありました。私はその自由に思い切り甘

え、好きなことだけを追いかけました。ぜひ皆さんにも、この「ゆとり」を十分に味わってほしいと思います。
91年に修了後、三菱ガス化学に入社しました。奨学金制度がきっかけで、何気なく応募した会社でした。天然ガスを原料に化学品をつくる一方で、機能材料や半導体関連など幅広い分野を手がけており、入社当時の私には全体像がつかめないうほひでした。
配属は、つくば市北部工業団地にあった総合研究所。学生時代は有機反応や計算化学をやっていたのに、与えられたテーマは「高性能高分子探索」。用語すら分からず、最初は面白さを感じられ



三菱ガス化学 代表取締役社長 伊佐早禎則 さん

「ゆとり」を味わい「好き」に熱中を
からなくても、とりあえず打ち込んでみると道が開ける。これは今でも私の大事な美徳です。これを確認の実験を経た。写真は本人提供

2019年に研究所長、21年に経営企画部長、23年に研究管理役員、そして25年に代表取締役社長となり、現在に至ります。気づけば会社生活35年。振り返ると、大学時代に「好きなことに没頭した経験」が、ずっと自分を支えてくれたように思います。
皆さんも、今の環境をどう楽しむか、何に熱中するかを考えてみてください。夢中になれるものがあると、人生は驚くほど面白くなります。(昭和63年度農林学類卒、平成2年度環境科学研究所修了、写真は本人提供)

「形」の国際大会で優勝

矢田(体専4年)・石関(日自3年)



形は投の形、固の形など7種類あり、競技ではそれぞれに流し、礼儀正しさを採点制で競う。2人が出場した投の形では、手技、腰技、足技、裏捨身技、横捨身技の五つの分野の代表技を3本ずつ計15本、出場者が演技する。矢田が取、石関が受を務めた。

投の形には東南アジア勢を中心に計10組の選手が出場。矢田・石関はこの結果に満足していない。矢田は「出場者を見て絶対に優勝しなければいけない」と語り、5月30日に講道館(東京都文京区)で開かれた全日本形競技大会に出場し、投の形で4位入賞を果たした。

(川畑悠成)



表彰台上立つ矢田(右)と石関=本人提供

男子73kg級で田中2度目の日本一

世界選手権代表に ロス五輪へも弾み



内股で技ありを決める田中(手前)=柔道専門メディア eJudo 提供

階級別に全国から選抜された8人が日本一を競う全日本選抜体重量別選手権が4月4、5日に福岡国際センター(福岡市博多区)で開かれた。筑波大からは5人が出場し、男子73kg級で田中龍雅(体専4年)が優勝した。これをきっかけに、田中は10月にアゼルバイジャンで行われる世界選手権の同階級代表に選ばれた。

(横山心咲||比較文化学類4年)

柔道

田中の同大会出場は4回目。初出場の2023年は初戦敗退だったが、24年に初優勝を果たした。25年は3位だった。

田中は初戦で、竹市裕亮(国士館大4年)と対戦した。高校生の時から何度も試合経験があり、昨年度の同大会準決勝で負けた相手だ。竹市が組手で攻撃を封じてくる中で、田中は隙をつき、背負投で技ありを奪って勝利した。

田中は「互いに手の内を知り尽くしており、自分の動きを読んだ相手の行動にどう対応するかを考えて試合に臨んだ」と話した。

準決勝の相手は内村秀資(自衛隊体育学校)。試合時間残り2分で内村が裏

縄跳び

後方宙返りをしながら4重跳びをし、着地後はさらに5重跳びを決めた。中学2年時に出場した縄跳びの世界一を決めた田中は「ワールド・ジャンプ」のタイトルを獲得した。

ロープ選手権2022で、アクロバットを取り入れた難易度の高い技を次々と繰り出し、14歳以下男子フリースタイルで優勝した。

縄跳び競技の中でも1本のロープを使うのが「シングルロープ」だ。世界チャンピオンとなった「フリースタイル」部門は、音楽に合わせて1分15秒間演技し、技の難易度や完成度を競う。

当時はコロナ禍で、演技を収録したビデオを事務局に送って審査を受けるバーチャル大会となった。優勝を知らせるメールが届いたのは半年後。「まさか優勝できる」とは思っておらず、飛び跳ねて喜んだ」と振り返る。

静岡県富士宮市出身。5歳の時、幼稚園での体力づくり活動で縄跳びと出会った。卒園前には一度も引かずに前跳びを27分間続けられるようになった。

本格的に競技を始めたのは小学3年時。地域の縄跳びクラブに通い始めた。縄から片手を離し、空中で回転させながら再びキャッチする上級生の技をまねして覚え、更に自身のオリジナル技に発展させた。

中学では有力選手を輩出した「日本なわとびアカデミー」(愛知県豊田)に所属。ワールドジャンプロープ選手権の優勝につながった。高校ではさらに高いレ



第一サッカー場に愛称

「フカガワみらいフィールド」に



記念式典でテープカットをする永田恭介学長(左)と深川和己社長(中央)(4月16日、第一サッカー場で)

サッカー

第一サッカー場(つくば市天王台)の愛称が4月から「フカガワみらいフィールド」となった。空調タクト製造を手掛けるフカガワ(本社・埼玉県川口市)からの寄付に対する謝意として、筑波大が5年間にわたる同サッカー場の命名権を同社に付与した。同社は愛称について「未来を担う若い力がここで育ち、羽ばたいていく場所であってほしい」と願っていると、筑波大、地域の皆様、私たち企業がともに未来を創っていったという想いを込めたとしている。

(飯野歩、写真も)

縄跳びで世界目指す



世界大会14歳以下男子フリースタイル優勝 工藤吉平(体専1年)

で演技する「ダブルダッチ」で世界大会優勝者を輩出した日本有数の縄跳びクラブだ。「小学6年時に出場した国際大会があった」という。ダブルダッチで縄を回す練習に取り組んだことで、シングルロープの回転速度も向上し、高校2年時に世界大会に出場した。

バスケットボールをしていて右足首を骨折。これをきっかけに1年間縄跳びから離れ、受験勉強に専念することにした。

「競技では足を真っすぐ伸ばして着地した方が評価される。それができるようになれば、アジア大会の優勝も見えてくる。大学4年間で技術を磨き、将来は指導者として縄跳びの人口を増やしたい」と話した。

(吉田花||日本語・日本文化学類2年、写真は本人提供)

理系への進学も考えたが、自分が縄跳びでどこまでいけるか試したいと気づき、筑波大体育専門学群への進学を決めた。「フォームやジャンプを科学的に分析し、競技力向上につなげられる環境に魅力を感じたから」。

約1年のプランクを経て出場した2月の全日本ジャンプロープ選手権では、柏なわとびクラブのメンバーと男子ペアフリースタイル部門で優勝。今年7月のアジア大会の代表に選ばれた。

宿舎祭 62店出店 両日ともに夏日に



人気ゲーム「ピクミン」の敵キャラを模した御輿を担いで練り歩く国際総合学類生(5月30日、未来社会デザイン棟前で) = 結城希撮影

新入生が中心となる「第52回宿舎祭(んどかり祭)」の前後祭が5月29日、本祭が30日に平砂学生宿舎周辺で開かれた。両日とも天候に恵まれ、夏日となった今年のスローガンは「祭生飛躍(さいせいひやく)」。新しく生まれ変わった宿舎祭。伝統の再生と未来への飛躍の願いが込められている。(碓井美弥子 知識情報・図書館学類1年、鈴木瑠季 同1年)

平砂共用棟南側のメインストリートや本祭に合わせ開所式が行われた「未来社会デザイン棟」横には学類やサークルによる計62の屋台が並んだ。本祭の午後には、同棟前で新入生が御輿(パフォーマンスを披露した後、メインストリートを練り歩き、祭りを盛り上げた。御輿には計六つの学類・専門学類が出場し、人気ゲームのキャラクター「ピクミン」をテーマにしたパフォーマンスを披露した国際総合学類が最優秀賞に輝いた。また、野外ステージでは「ゆかたコンテスト」が開かれ、4団体がパフォーマンスを行い、んどかり祭を盛り上げた。最優秀賞には初出場の書道部が選ばれた。化学類1年生は学年合同でデユロスを販売した。シナモンシユガー味やきなこ味など全4種が200円で提供された。店名は「ケミチュトリー」。ケミストリーとデユロスを掲げた。「デユロスと各味のパウダーシユガーが入った袋を購入者に振ってもらうことが他店にないポイント」とメンバーの高橋翔平さん(化学1年)が語り、祭でデユロスを売った4店舗中最安値で、2日間で610食を売り上げた。知花理央さん(社会学1年)はクラスでデユロスを販売する「デユロスすぎて減!」に参加した。「初日はサークル活動があり、参加できなかったが、2日目はお店の運営に積極的に携われてよかった」と振り返った。実行委員長の中山空さん(知識3年)は「伝統行事の宿舎祭と新たな象徴の未来社会デザイン棟を組み合わせたことで『新しく生まれ変わった宿舎祭』を体現できた」と話した。



「舞踏研究会」メンバーと記念撮影する来賓と永田学長(5月30日、未来社会デザイン棟で) = 飯野歩撮影

未来社会デザイン棟 宿舎祭に合わせ開所式

筑波大生が地域社会や企業と日常的に交流する新たな拠点となる「未来社会デザイン棟」の開所式とオープニングイベントが5月30日に開かれた。同棟は学生が中心となって運営することを踏まえ、新入生主体のお祭り「宿舎祭(んどかり祭)」と同日開催された。このため、多くの一般来場者も参加する華やかな雰囲気での開所式となった。また、学生からの公募と投票を踏まえて愛称は「H I R A - N O V A (ひらのほ)」に決まった。式典は筑波大の競技ダンスサークル「舞踏研究会」によるパフォーマンスで幕を開けた。来賓として国光あやの衆院議員、上月良祐参院議員、加藤明良参院議員、五十嵐立青・つくば市長、安藤真理子・土浦市長ら、筑波大からは永田恭介学長や加藤光保プロボス、副学長らが出席した。同棟は鉄骨造り1部3階建てで延べ床面積は5070平方メートル。大屋根が全体を包む特徴的なデザインとなっている。1階には300人収容のイベントホールがあり、2階には学生らがグループワークできるスペースが設けられた。3階は企業が入居できる共同研究スペースとなっている。

宿舎入居率6割

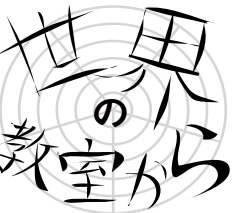
新入生は目標の半分未満

筑波大の学生宿舎全体の入居率は、一斉入居後の今年4月18日時点で59.9%。新入生全体に対する入居率は34.3%だった。学生生活課への取材で分かった。筑波大は宿舎全体と新入生の入居率をいすれも8割にする目標を掲げているが、現状では届いていない。同課は「未来社会デザイン棟が稼働するなど宿舎エリアの活動可能性は今後、大きく拡張される。それと連動し、体験入居やショートステイなど、入居率向上に向けた多面的な取り組みを継続していく」としている。

シヨートステイハウス(295人)だった。入居者には新入生の大学院生や短期留学生・研究生なども含まれる。世帯用宿舎は入居人数にかかわらず1人とカウントしている。新入生向けには4月14日から宿舎入居の追加募集が行われ、2人が追加入居した。昨年同様の新入生入居率は38.4%、年度途中の入居やシヨートステイなどを合わせた年間入居率は47%だった。

全体対話開催 宿舎巡り

学生宿舎の利用料値上げなどを巡り、大学側と学生との全体対話が6月2日に開かれた。千葉親文副学長(学生担当)、加藤光保プロボス、学生部の担当者と学生27人が参加。延期されている値上げの時期や今後の宿舎の在り方などについて意見交換した。千葉副学長は値上げの時期について「役員会での決定を経る必要がある現時点では未定だが、実施の半年前には告知できるように進めていきたい」と話した。参加学生からは、経済的理由で宿舎への継続入居が認められている学生について、宿舎利用料減額を求める要望も出た。これに対し「かけられる言葉を持っていない」と彼は話した。ムスリム社会に生まれることも、ゲイであることも、彼が自身の意思で選んだわけではない。だが、彼自身がゲイであると話してくれた。



マレーシア科学王学(マレーシア)

安藤輝羽

現在、マレーシア科学王学大で社会科学と経営を学んでいる。日本とは異なる文化や価値観に囲まれる中で、特に強く考えさせられたのが宗教と人の生き方の関係である。



中華系マレーシア人の伝統衣装を着てポーズを取る = 本人提供

マレーシアはイスラム教徒が多数を占める国である。まちはモスクがあり、礼拝の時間を知らなかった未来を皆さんとも創っていくべき」と意気込みを述べた。(王生泰)

一般にイスラム教において同性愛は禁じられている。「親に言うこともできず、自分らしくオーブンに生きる」ことができない。彼に簡単な

信じるいとしきるいとし

留学生生活で学んでいるのは語学や授業の内容だけではない。異なる背景を持つ人が、何を大切に、何に悩み、どのように日々を生きているのかを知ろうとする姿勢そのものなのだ。(国際総合学類4年)

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

「NO LGBTO」を説明される場面があった。そのとき私は、それをマレーシア社会における宗教的・文化的価値観の一つとして受け止めた。しかし、その言葉の重みをより実感したのは、マレーシア人でムスリムのある同級生と出会ってからだ。彼は授業で知り合った。その陽気な性格のおかげで、一緒に

医学食堂リニューアル 本格カレーや人気店ラーメンも

医学食堂「Doctor's Kitchen」(医学福利厚生棟)が4月6日、リニューアルオープンした。学生・教職員に加え、病院利用者など学外者の利用も見込んだ食堂として整備され、本格的なインド料理やベジタリアンメニューなど多様なメニューが用意された。茨城県土浦市の人気ラーメン店「龍介」が監修した本格ラーメンも楽しめる。

リニューアル後の運営者はつくば市内などで複数の飲食店を展開する「ヤングガンズ」。店名には、医療関係者や医療を志す学生の食を支えたいという思いを込めたという。

店舗の面積は316平方メートル、注文は、現在158席。注文は、現地で15分程度、4月2日

金とキャッシュレス決済に対応した券売機で食券を購入する。注文したメニューが用意できると、番号がモニターに表示される。それまで席で待つことができ、営業時間は昼の部が月曜日の午前11時から午後2時(ラストオーダー)。夜の部は午後5時から8時半(同)。テイクアウトにも対応している。提供メニューは、学内アンケートで要望が多かった定食系を中心に準備されたという。

同食堂は昨年夏、前運営業者が経営悪化で撤退し、しばらくフリースペースとして開放されていた。(壬生泰太 12面に関連写真)

新歓祭

雨天でもにぎわう

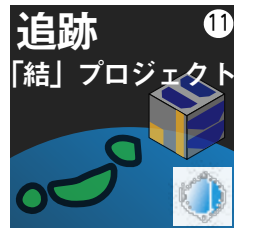
茗溪会とのコラボも

新入生歓迎祭(新歓祭)が4月10日、筑波キャンパスの各教室やペDESTリアンデッキ治いを会場に開かれた。今年度は「大学って、自由だ」をコンセプトに、約200の学生団体が参加した。また、筑波大

6時にかけて松美池と石の広場のステージで予定されていた学生団体のパフォーマンス披露は中止となった。それでも、会場は多くの人で賑わった。

その中でも作曲サークル「Tsukuba DTM Lab」は、1C棟504教室に出展。バンドサウンドや低音が特徴のベースミュージックなど、会員がパソコンを使って作曲したデスクトップミュージック(DTM)作品を、新入生らが試聴していた。また、会員の作品をまとめたCDアルバムやジャケットなども展示された。

また、新歓祭の締めくくりとなる松美池ステージでのフィナーレパフォーマンスは予定通り実施された。



筑波大生が中心で超小型衛星「TSUKUTO」を製作中の「結プロジェクト」は現在、衛星に搭載するアンテナを開発中だ。

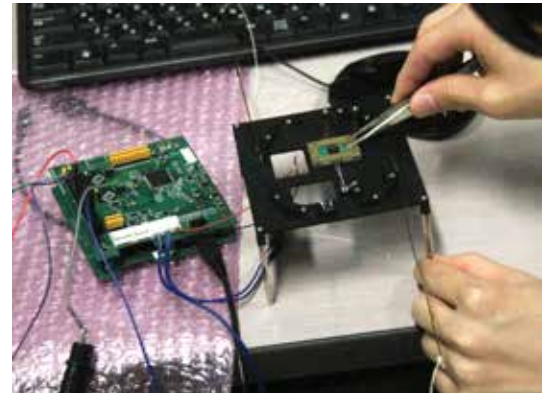
アンテナは電波を用いて衛星と地上の間で情報を送受信するための部品だ。搭載するアンテナは「モノポールアンテナ」と呼ばれる。1本のリン青銅製の形状記憶合金ワイヤからなる構造で、周囲360度の方向に

アンテナ開発進む 宇宙での確実な通信へ

TSUKUTOはこのアンテナを2本搭載し、打ち上げ時にはこれらを曲げて収納する。高度約400キロの軌道上にある国際宇宙ステーション(ISS)から衛星が放出された30分後にアンテナを展開する。

アンテナ開発を担当する通信系のメンバーは3月から、アンテナの最適な長さを決定するための「SWR試験」に取り組みている。

具体的には、3Dプリンターで製作した機体模型にアンテナを取り付けて電氣信号を流し、発信された電波を計測する。計測精度を高めるため、



機体模型にアンテナを取り付けるメンバー(5月12日、総合研究棟Bで)

波が弱くなってしまう。その結果、地上との送受信も困難になる恐れがある。アンテナはワイヤが長いほどSWRが高くなるため、今回の実験ではアンテナを少しずつ切りながらSWRを測定し、最適な長さを探った。その結果、アンテナの長さは19.7センチに決まった。試験を担当した今井純平さん(工学2年)は「模型での試験を終え、ひと安心した。次は試験機(エンジンアリングモデル)でもSWRが1に近い値が出るかを確認する最終段階に入る」と今後を見据えた。

一方、衛星本体の設計を行う熱・構造系のメンバーは、収納されたアンテナが正しく展開されるかを確認する試験中だ。幅3.3ミリ・厚さ0.2ミリのアンテナの先端には小さな穴が開いている。その穴と機体を高強度のボリ

リエチレン繊維で結び、収納可能な半円形の形状になっている。その繊維に接続しているニクロム線に電流を流して加熱し、繊維を焼き切れば展開できる仕組みだ。

試験ではニクロム線に電流を流し、機体模型に取り付けたアンテナが正常に展開されるかを確認した。担当した栗田麟太郎さん(同2年)は「正常に繊維を焼き切れてはいるが、半円状に丸めて収納している影響で、展開時に反りが残ってしまう。より真っ直ぐ展開できる収納方法を探していきたい」と語った。(吉田花江 日本語・日本文化学類2年、写真も)



「生地との混ざり具合がいい感じ」「アーモンドが香ばしい」

お菓子作りサークル「ハンゼルとグレーテル」が今年5月、新歓活動の一環で開いたお菓子作り体験会。会場となったつくば市民センター

この日のメニューはフロランタンなど4種類で、15人が参加した。

フロランタンは、クッキー生地をキャラメルで



新歓活動でフロランタンを作る参加者ら(5月24日、つくば市民センターで)

「生地の混ざり具合がいい感じ」「アーモンドが香ばしい」

お菓子作りサークル「ハンゼルとグレーテル」が今年5月、新歓活動の一環で開いたお菓子作り体験会。会場となったつくば市民センター

この日のメニューはフロランタンなど4種類で、15人が参加した。

フロランタンは、クッキー生地をキャラメルで

お菓子作りを通じ交流

生から大学院生まで23人。毎月2回ほど、日曜日の午後、同センターなどの調理室を借りて活動している。

高工さんは「皆で集まってお菓子作りをすることで、サークルの一番の魅力だ。新歓を機に、お菓子作りを通して、調理中にも自然と会話が生まれ、新たな趣味を見つけた人にも参加しやすい」と語った。

新歓を経て5月に大入会した大上詩央里さん(体専3年)は「所属する水泳部以外の活動をしたくて入会した。参加者同士で話しながらお菓子を作ると、1日が充実した気持ちになれる。今後も積極的に参加したい」と笑顔を見せた。

新歓で留学生も入りつつあるため、母国のお菓

高工さんは「お菓子を作った経験がなくても、怖がらずに一度作ってみれば、完成後の達成感が忘れられなくなるはずだ。インスタグラムやX(旧ツイッター)からのダイレクトメールで体験参加を受け付け中で、気軽に連絡してほしい」と語る。(大成夏生 比較文化学類2年、写真も)

Who's Who?

T-ACT企画「ひかりのや」プランナー

福澤葉月 さん (資源3年)



夜桜ライトアップを成功させ喜ぶプロジェクトチームのメンバー。右から浅野さん、福澤さん、勝部さん、鈴木さん=福澤さん提供

一の矢宿舎周辺の夜桜を学生たちが手作りしたランタンでライトアップするイベント「ひかりのや」のプランナーを務めた。4月9日のイベント当日は宿舎に住む留学生やその家族、SNSなどを使った告知で知った新入生や在校生ら約30人が参加し、夜間は人通りが少なく閑散

とする場所に、安心感とにぎわいを生み出した。「野外での開催だったので天候や集客が不安だったが、目指していた交流の形になった。みんなが楽しんで参加してくれてうれしかった」と振り返る。このイベントの、そもそものきっかけは、福澤さんの友人の

勝部奈桜さん(資源3年)が大入学後、一の矢学生宿舎に入学したことがきっかけ。同宿舎周辺は豊かな自然が広がる落ち着いた環境だが、夜間は静まり返った印象を与える場所もある。勝部さんは「キャンパスの中心と宿舎を結ぶ道をイルミネーションなどでキラキラさせたら面白い」と考え、福澤さんに声をかけた。そこから、英語のクラスが同じ鈴木心捺さん(同3年)、勝部さんのサークル仲間の浅野真子さん(障害3年)へと話がつながり、4人でプロジェクトを始めた。福澤さんは「イベントなら、自分で何かを形にするのことに憧れをもっていた。中高時代はバスケット勉強に熱中したが、大学入学後は視野を広げてみたかった」と語る。だが、プロジェクトが順調に進んだわけではなかった。

一の矢の夜桜をライトアップ 安心感とにぎわい創出

1年生の1月ごろから4人でミーティングを重ね、企画案を出し合った。当初は企業との共同開催や循環バスが通るループ道路沿いのライトアップなどの案が出たが、メンバーが少ないうえに実現のハードルが思ったより高かった。福澤さんは「自然と人とのつながりを意識してプロジェクトに臨んでいた。得られた達成感や人とのつながりは、何かしらの形で次に生かせるはずだ。やってみたいことを後悔ないようにやりたい」と語った。

その後、サポーターの教員にアド

感染症対策で協働大学院



調印式で記念撮影する各機関の代表者(5月12日、東京キャンパスで) = 飯野歩撮影

2面へ

自転車に青切符導入



自転車レーンと歩行者レーンに分かれている東大通りの歩道(6月11日、柴崎交差点で) = 結城希撮影

3面へ

学術系サークル合同新歓



全体説明を受ける合同新歓参加者ら(4月20日、第一エリアで) = 惣田堅斗撮影

5面へ

医学食堂リニューアル



リニューアルされた医学食堂のキッチン(5月7日、医学福利厚生棟で) = 壬生奏太撮影

11面へ

学内総合

ミニ特集

学芸

学生生活

編集後記

今年度は10人のメンバーが編集部に加わってくれました。早くも宿舎祭(10画)や反射鏡(4画)の取材、紙面レイアウトなどの作業に参加しています。編集部がいつも増してき

【編集・発行】
筑波大学新聞編集委員会
▽委員長 内海真生(生環系) 教授 水環境生態工学
▽副委員長 元村彰雄(学生部長) 委員 秋山肇(人社系) 助教 憲法・平和研究、下竹亮志(体育系) 助教 スポーツ社会学、永森光晴(図情メ系) 講師 セマンティックウェブ・メタデータ
筑波大学新聞編集部
▽編集代表 鴨志田公男(筑波大学) 教授 サイエンスコミュニケーション
▽編集長 川畑修成(知能情報・図書館学類3年) 副編集長 大成夏生(比較文化学類2年) 望月柚那(同2年)
ほか編集部員25人

次号は
9月30日(水)
発行予定です

発行所 筑波大学
印刷 リリコム